ダブル J ステント（D-J ステント）留置を受けられる患者様へ

秋田大学医学部　泌尿器科教室

尿管とは腎臓と膀胱をつなぐ管で、尿管が何らかの原因（結石、腫瘍、炎症など）で狭くなったり、閉塞してしまうと腎臓からの尿が膀胱に流れてこないため、痛み、発熱、腎臓の機能が悪化などを生じます。症状が著しい場合には生命をおびやかす可能性もあります。D-J ステント留置は、この状態を改善する目的で、尿管内に細い管（カテーテル）を留置する治療です。

治療内容

○ 治療は外来専用ベッドもしくはレントゲンの部屋で行います。治療時間は 30~60 分程度です。

○ 治療施行時は痛みを伴いますが、多くの場合は尿道麻酔のみでも可能です。痛みが強い場合は仙骨麻酔を行うこともあります。

○ 内視鏡を膀胱に入れ尿管口よりカテーテルを挿入します。

○ 治療終了後はレントゲンでカテーテルの位置の確認を行います。

○ 病状の改善後カテーテルは抜去します。長期間に留置の必要がある場合は 3~4 ヶ月毎に交換します。

○ 以下のような場合には D-J ステントが良好な部位に挿入できない場合があります。

1） 膀胱、尿道、など内視鏡が通過する部位の変形が著しいとき。

2） 尿管口（尿管の出口）や尿管が著しく変形したり、狭かったりする場合。

3） 患者さんの状態により治療に十分な体位や静止ができない場合（このような場合には後日再度治療を行うか、別の治療を行う必要があります）。

治療の合併症

１） 血尿：軽度の血尿はすべての方にみられます。通常は問題ありませんが、程度が強い場合は止血剤の投与や追加の処置が必要になることがあります。

２） カテーテルの迷入：通常はカテーテルの抜去は容易で安全に行われますが、稀にカテーテルが尿管内に深く入ることがあり、その際には手術室で全身麻酔をかけて行うことがあります。

３） 周囲臓器の損傷：治療時の操作により尿道、前立腺、膀胱、尿管、腎臓などに傷がつくことがあります。重篤な場合には追加の処置や開腹手術を行うことがありますが、このような場合は稀です。

年　　月　　日

上記について説明を行いました。　　氏名

上記について説明を受けました。　　氏名